

2024 年度 織田製菓専門学校

学校関係者評価報告書

(令和 6 年度)

評価対象期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

織田製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. はじめに

2024 年（令和 6 年）4 月 1 日～2025 年（令和 7 年）3 月 31 日を評価対象期間とした自己点検評価報告を元とした織田製菓専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会および飲食業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2025 年 5 月 15 日（木）12：00－13：30

会 場：織田製菓専門学校 第 2 校舎 2F 教室

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	元高等学校教員
古谷 健	(株)スーパーキタムラ	パン製造責任者、ブーランジェ	卒業生、元教員
藤野 絵美	フリーランス	フランス語通訳	外部講師

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員 3 名よりそれぞれ評価をいただいた。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切 3名
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	
学校の教育理念やポリシーは学内外に広く公表されているか。	4	

< ご意見・評価等 >

- ・ HP や学校案内に教育理念・目標に基づいて学校の特色が分かりやすく記載されている。
- ・ 現役パティシエの講師に学ぶことにより、リアルタイムで現場の話を聞けるのが良い。
- ・ 理念にのっとった教育をしており、それに沿った授業になっていると思う。

【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が定められているか。	4	適切 3名
学校関係者評価で得た意見を有効に活用できたか。	4	
カリキュラムや学習環境が正しく機能しているか検証・見直し、修正されたか。	4	
選択科目について、時代に合わせた内容に変化させ充実を図ったか。	4	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	

< ご意見・評価等 >

- ・ 変化の大きい時代の中、それに沿った教育をしていると感じた。
- ・ ポリシーのうちの「考えた就職」について、周りに流されずに将来を見据えて目標や夢に向かっていくことを指導するのは素晴らしい。
- ・ 選択科目について、時代に合わせて見直し、充実させたことは評価できる。
- ・ より業界のニーズに対応するため、定期的に関連企業との協議の場を持つことを検討して欲しい。

【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿ったカリキュラムになっているか。	4	適切 3名
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の見直しが行なわれているか。	4	
実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	3	

< ご意見・評価等 >

- ・毎年修正を加えながらカリキュラムを編成し、製造販売実習など実践的な職業教育が行われていることは評価できる。
- ・教員の外部コンクールへの出品を含め、研修参加を保障し、計画的に実施して欲しい。
- ・対面授業とオンライン授業を効率的に組み合わせることの検討も進めてもらいたい。
- ・現役パティシエの講師からのアドバイスも受けられ、社会に出てから役立つ授業内容になっていると思う。

【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	4	

< ご意見・評価等 >

- ・就職指導では個々の学生に合った現場を紹介できるようにサポートしていると思う。
- ・少人数だからこそ、一人ひとりの学生の性質を理解して伸ばすことが大事。
- ・経済的困難を抱える学生に対する相談・支援の体制をより充実させ、学業と両立できるように努めて欲しい。
- ・学生の自主トレーニング指導など、きめ細やかな指導が行われていて好感が持てる。
- ・就職は好調なので、留学生を含め学生への就職支援を更に進めて欲しい。

【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	2	適切 3名
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	
卒業生への支援体制はあるか。	4	
家庭との連携は適切だったか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・家庭との連携を密にすると共に、教員間で学生情報を共有し、誰でも相談に乗れる体制を作り、退学者を出来るだけ減らすように努めて欲しい。
- ・外部の相談機関ではなく、学内にカウンセラーを置くことも検討する必要がある。
- ・学生の出席率の状況や奨学金の紹介等、家庭と連携してサポートすることが大事。
- ・留学生への対応の難しさは理解できる。

【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・実際に転職時のサポートを受けた卒業生の話を聴く機会があると、在校生や志望者も安心できると思う。
- ・施設や設備については、教員・学生の要望も把握しながら充実を図って欲しい。
- ・卒業生との連携も適切だと思う。

【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
オープンキャンパス(OC)参加者の増加は達成できたか。	1	適切 3名
OCからの取り込み率は向上できたか。	3	
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	3	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	3	
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	3	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	2	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・HPやSNSでの発信を工夫し、OCも学生の協力を得て実施しているのは評価できる。
- ・OC参加者が減少しているが、従来のように製菓分野を志望する高校生が増えてない中で、競合校には無い学校の魅力を発信し、認知度を高めて欲しい。
- ・OC参加者へのアピールが重要なので、課題はOC参加者をどう増やすか。広報担当との更に深い話し合いが必要。
- ・他校との取り合いになるので、面倒見の良さや、手に職をつけると世界中のどこでも活躍できるというプラス面をアピールしたい。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	4	適切 3名
会計監査は適切に行われているか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・財務改善のためには入学者の増加と退学者の減少に教職員一丸となって取り組む必要がある。
- ・教育の質を維持しながら経費を削減する工夫が必要。
- ・物価高騰の中で経費を抑制しながら質の良い授業を行うのは難しいと思う。
- ・現状の中での経費削減の方法や実態について学生に話すのも学生のためになると思う。
- ・財務改善のために中・長期計画を作成し、取り組む必要がある。

【 9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	適切 3 名
自己評価の結果を公開しているか	4	

< ご意見・評価等 >

- ・コンプライアンス規程を明文化して教職員間で共有していることは評価できる。
- ・各種情報をHPで公開しており、適切な運営がなされていると考える。
- ・情報はできれば3年分はアーカイブとして公開して欲しい。
- ・学生との関り方やコミュニケーション等、時代に応じてアップデートすることが大事。

【 10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や自治体と連携した企画を積極的に実施しているか。	4	適切 3 名

< ご意見・評価等 >

- ・学園祭などを見ても地域と連携できていると感じている。
- ・「パティスリーオダ」や「中野アールブリュット」など、地域貢献に協力していることは評価できる。継続して欲しい。

【 11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	3	適切 3 名

< ご意見・評価等 >

- ・入学した留学生に対して、言葉のフォロー（補講等）を行うと良い。
- ・留学生担当の職員を置き、体制を整えているのは評価できる。
- ・海外研修等の取り組みについても検討して欲しい。

5. 総評

○就職希望者の内定率が100%だという実績をふまえ、競合校との差別化を図り、学校の魅力や卒業生の活躍などを積極的に情報発信すると共に、高校との関係も深め、入学者の確保に努めて欲しい。

○学校運営の要である学生数の確保のため、これまで以上にO Cに足を運んでもらうにはどうしたら良いのか。皆で考えたい。

織田製菓専門学校
学校関係者評価委員会